

山 岳 遭 難 発 生 状 況

(令和8年1月1日～令和8年2月1日)  
地域部 山岳安全対策課

1 山岳遭難発生状況（暫定値）（令和7年数値は1月1日からの同期間数値）

区 分	発生件数	死 者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
令 和 8 年	18	5	1	5	12	23
令 和 7 年	11	2	0	6	7	15
前 年 同 期 比	7	3	1	-1	5	8

2 山域別発生状況

区 分	件 数	件数比率	死 者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
北 ア	槍穂高	0	0.0%	0	0	0	0
	後立山	8	44.4%	3	1	1	6
	その他	0	0.0%	0	0	0	0
計	8	44.4%	3	1	1	6	11
中央アルプス	1	5.6%	0	0	0	1	1
南アルプス	0	0.0%	0	0	0	0	0
八ヶ岳連峰	4	22.2%	1	0	2	3	6
その他の山岳	5	27.8%	1	0	2	2	5
計	18		5	1	5	12	23

3 態様別発生状況

区 分	件 数	件数比率	死 者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
転・滑落	4	22.2%	1	0	3	0	4
転 倒	1	5.6%	0	0	1	0	1
病 気	2	11.1%	2	0	0	0	2
道 迷 い	3	16.7%	0	0	0	6	6
落 石	0	0.0%	0	0	0	0	0
雪 崩	2	11.1%	1	1	0	0	2
落 雷	0	0.0%	0	0	0	0	0
疲労凍死傷	2	11.1%	0	0	0	2	2
不明・他	4	22.2%	1	0	1	4	6
計	18		5	1	5	12	23

4 男女別・年齢別比率

区 分	男 性					(人) 比率	女 性					(人) 比率	男女計	
	死者	不明	負傷	無事	計		死者	不明	負傷	無事	計		人数	比率
1 9 歳以下	0	0	0	0	0	10 58.8%	0	0	0	0	0	3 50.0%	0	13 56.5%
2 0 代	1	0	0	7	8		0	0	0	2	2		10	
3 0 代	1	0	0	1	2		0	1	0	0	1		3	
4 0 代	1	0	2	0	3	5 29.4%	0	0	0	0	0	1 16.7%	3	6 26.1%
5 0 代	1	0	1	0	2	2 11.8%	0	0	1	0	1	2 33.3%	3	4 17.4%
6 0 代	0	0	0	2	2		1	0	1	0	2		4	
7 0 以上	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0		0	
計	4	0	3	10	17		1	1	2	2	6		23	
比 率	73.9%						26.1%							

(※ 比率の計は、小数点の調整上、一致しない場合あり。)

先週の発生（1/26～2/1）

日付	場所	性別	年齢	死傷別	態様	概要
1月25日	白馬村 神城地籍の山中	男	42	死亡	雪崩	3人パーティでバックカントリーを滑走中、雪崩により、行方不明（1/26遺体で発見）
1月27日	ハケ岳連峰 阿弥陀岳	女	54	負傷	転落	2人パーティで広河原沢をアイスクライミング中、バランスを崩して、転落、負傷
1月29日	上高井郡高山村 奥山田地籍の山中	男	38	無事救出	疲労	単独でタコチコースのバックカントリーを滑走中、疲労により、行動不能
2月1日	黒姫山	男	43	負傷	その他	4人パーティでバックカントリーを滑走中、立木に衝突し、負傷

山岳安全対策課からのアドバイス

先週県内では3件の山岳遭難が発生し、バックカントリー中の遭難が2件、アイスクライミング中の遭難が1件発生しています。

アイスクライミングは、氷壁や地形を利用して、素早く確実な支点を構築する技術や様々な状況下で安全に登る技術など、高度な技術が必要となります。また、氷の状態は気温や天候の変化に大きく左右されます。一見安定して見える氷瀑でも、気温の上昇等により、突然崩落する可能性があります。

これからアイスクライミングを計画している方は、

- 経験と正しい技術を有する者と同行
- 経験豊富な山岳ガイドの同行
- 講習会への参加や技術習得
- セルフレスキュー、安全点検

を対策として行いましょう。